

高山市平和都市宣言検討会議 平和都市宣言文案 手交式

日 時	平成28年11月14日（月）14：00～14：40
場 所	高山市役所 4階 特別会議室
出席委員 11名 (敬称略)	黒木正之（会長）、元仲しのぶ（副会長）、高桑眞佐子、岡田悦子、谷口律生、谷口津弥子、小林浩、住奥久隆、伊藤文子、糠塚良一、高原透
内 容	<p>■高山市平和都市宣言検討会議 会長 挨拶（要旨）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の平和への思いを一枚にまとめるのは、困難な作業だったが、多くの議論の積み重ねによって文案ができあがった。成し遂げられたのは、様々な考え、知識を持ったメンバーだったからであり、委員各位の尽力に感謝する。 ・また、多くの市民からご意見を頂戴し、中学生や「高山戦争を語りつぐ有志の会」さんからも、貴重なお話をお伺いしたことに御礼申し上げます。 ・文案を作成するにあたり、大切にしたいポイントがある。 <ul style="list-style-type: none"> ・一つ目は、宣言文を、市民一人ひとりが自分のこととして、世界の恒久平和の実現に貢献する意志を表明するものと位置づけた。 ・二つ目は、市民の心構えである市民憲章の精神を踏まえ、市民の平和への行動を促し、高山市らしくて分かりやすい宣言文となるように作成した。 ・三つ目は、生き方や考え方によって、文章の捉え方は、人それぞれであることを踏まえ、それぞれの価値観や感性によって想像・行動していただける宣言文となるように作成した。 ・この思いを是非、お受け取りいただき、宣言文案を世界の恒久平和の実現のために、お役立ていただきたい。 <p>■高山市平和都市宣言文案手交</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒木会長（左）より國島市長（右）へ文案を手交。



■高山市長 謝辞（要旨）

・ 22名の委員各位におかれては、お忙しい中、昨年9月から長きに渡り、議論を重ねられ、文案を作成いただいたことに敬意を表し、感謝する。

・ 9万人の市民には、それぞれの思い、心、経験があり、何事においても、100%全く同じ気持ちで物事に取り組んでいくことは、なかなか困難だと思う。それでも、この文案には、市民の平和への思いが凝縮されており、市民が平和への取り組みを行っていくうえでの芯になると思う。

・ 安全安心、豊かな気持ちで暮らせることの基本は、命と生活を脅かす外圧、心配がないことだと思う。世界の一人ひとりが、相手を大切に思い、争いのない社会をつくっていく気持ちを持つことが重要。このために、高山市は、小さなまちではあるが、皆の平和への思いを一つにして、世界に訴えていく必要があるのではないか。これは、戦争、原子爆弾を経験した日本人としての使命だと思う。そして、子どもたち、孫たちに、今の豊かな地球を残していく原動力にもなると思う。

・ ただし、宣言することだけが重要ではない。これから、宣言を柱として、我々市民一人ひとりが、どういう行動をしていくかが大切だと思う。市は、これまで、平和推進事業を重ねてきた。平和都市宣言の意見募集には、多くの市民から意見をお寄せいただくことができ、市民の理解が深まってきたと思う。これからも、世界の恒久平和の実現に向け、世界の人たちに呼びかけ、成果が伴う努力をし、一歩ずつ着実に歩み出していきたい。この文案は、責任をもって、議会と協議し、市民の皆様方の思いを世界に向けて宣言できるようにさせていただく。委員各位におかれては、文案に込められた思いを市民の皆様へ伝えていただき、市民の平和への行動にお力添えをお願いしたい。

■懇談

（市長発言要旨）

・ 文案作成に携わったご感想、ご苦労された点などお話しいただきたい。

（委員発言要旨）

・ 最初は、文案を一から作成することに驚き、簡単なことではなかったが、自分としては、納得できるものが出来上がったと思っている。

・ 自分自身、平和や世界情勢などについて、改めて学び直すことができた。この宣言を、これからは担う子ども達に託していきたいし、子ども達に良く考えてもらいたい。

・市民意見募集など、戦争を知らない子ども達にとって、平和を考える良い機会になったのではないか。宣言がきっかけとなり、家族でも、平和について考えていただきたい。

・市民意見で、普段の日常に平和を感じるとの意見が多かったので、子ども達は、高山で生活していることを良いことだと思っていると感じながら、文案作成に臨んだ。言葉は、読む子ども達の心、知識、感性によって、その感じ方、捉え方が違ってくる。子ども達の感性を育てていかなければならないと感じた。子ども達が宣言を英語で海外へ伝えていければ良いと思う。

・今日は、市民憲章 50 周年の記念式典がある。50 年間、市民憲章を大事に生活してきたことが、平和に繋がっていると感じている。市民一人ひとは、宣言文の言葉の受け止め方が違うだろうが、宣言は平和への行動を起こしていく礎となる。どのように、私たちが平和への力となっていくか、大事なところにきていると思う。次代を担う子ども達の平和への思いを皆で育てていきたい。

・市民意見募集では、皆様それぞれが様々な意見をお持ちで、良く考えていらっしゃると感じた。戦後 70 年が経過し、その歴史の中で、平和への考え方は人それぞれ違うが、限られた文字数のなかで反映できたと思う。

・何回か、高校生を外国に引率した経験があるが、のどかな高山で育った高校生は、外国の治安、銃などの危険性を理解するのに手間取っていた。平和の大切さ、今の生活があたりまえではないことを子ども達に伝えていかなければならない。

・検討会議への参加は、平和について改めて深く考える機会となった。日々の普段の生活ができることが平和の基本。子どもや大人、高齢者が安心して暮らせるように考え、地域の活動に取り組んでいきたい。

・委員それぞれに思いがあり、議論を繰り返し、苦労したが、この日を迎えられる、本当によかった。次世代の児童・生徒・青年には勿論、高齢者にも、平和への意識を喚起し、何か行動に移せるよう、働きかけていきたい。

・市民意見募集に 1 万人以上から意見を寄せていただけたことは、市民の関心の高さの表れと捉えている。ただし、数年たって、宣言が忘れ去られてしまうことを心配する。宣言が、市民の心の中に生き続け、平和への力強い行動に繋がることを期待する。次世代、未来に語り継ぐ努力をしていきたい。